

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

敢えて「オフサイド」することをめざしてーべっぶ竹の駅（Beppu Bamboo Base）が絆（つな）ぐ伝統的工芸品とインバウンドの連結拠点整備プラン

2 地域再生計画の作成主体の名称

別府市

3 地域再生計画の区域

別府市の全域

4 地域再生計画の目標

（地域産業の振興に向けてパスを前に回す）

オフサイドはなぜ反則とされているのだろうか。ラグビーの醍醐味は、「密集」と「突進」にあるという。ボールを前に出して相手を待ち伏せする行為（オフサイド）は、この醍醐味を減殺するものとされた。オフサイドは、ラグビーにおいて観衆が「密集と突進が満喫できることの期待と願望を保証する」ものだという（中村敏雄『増補 オフサイドはなぜ反則か』（平凡社ライブラリー・2001）243頁・中村敏雄編著『ラグビーボールはなぜ楕円形なの？』（大修館書店・1992）38頁）。

我々は、敢えて楕円の球を前に向けてパスすることによって、地域産業の振興を図りたい。

（ラグビーワールドカップ公認キャンプ地誘致との相乗効果を狙う）

大分県は、ラグビーワールドカップ2019の開催都市であり、大分スポーツ公園総合球技場（収容人員40,000人）で試合が行われることになっている。本市は、昭和62年（1987年）以来、ニュージーランド・ロトルア市と姉妹都市として提携している。昨年（平成27年）7月、本市職員10名から成る「ラグビーワールドカップ2019別府キャンプ誘致プロジェクト」を設置して、キャンプ誘致活動を加速化させ、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるニュージーランドの「ホストタウン」として登録され、本年（平成28年）12月1日付けで公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会にラグビーワールドカップ2019公認キャンプ地への応募申請を行った。

そこで、本市は現在、ラグビーワールドカップ公認キャンプ地を誘致するために、本市の都市公園である実相寺（じっそうじ）中央公園内の別府市営実相寺多目的グラウンドを天然芝グラウンドに整備し、ナイター照明を設置する事業にも着手したところである（ラグビーワールドカ

ップ公認キャンプ地誘致に伴う天然芝グラウンド等整備事業)。ラグビーワールドカップと連動した地域産業の振興は、喫緊の政策課題である。

(欧米観光客・インバウンドへの訴求)

政府の統計によれば、九州の訪日外国人は約 283 万人であったが、米英独などの 8 か国は約 6 万 8000 人に過ぎず、全体の 2.4%にとどまっておられ、九州は欧米での認知度が低い。他方で、欧米観光客は滞在時間が長く、富裕層も多い傾向があり、2019 ラグビー・ワールドカップ、2020 東京オリンピック・パラリンピックを控えて、九州に新たな観光客を呼び込むチャンスが到来している(2016.12.1 読売新聞)。

(観光産業の現状)

本市の基幹産業は、豊富な温泉資源をいかした観光産業(宿泊・飲食サービス業など)である。

本市の総生産額に占める第 3 次産業の割合は、大分県平均が 55%であるのに対し、91%となっている。全従業者数に占める第 3 次産業の割合は、89.8%を占めている状況である(RESAS データ)。

第 3 次産業の中では、卸売業・小売業、医療・福祉の従業者数が多く、卸売業・小売業には男女合わせて約 9,700 人の市民が従事しており、そのうち約 7,700 人が市内で就業している。医療・福祉では女性の従業者が多く、9,222 人の市民の従業者のうち女性の市内従業者は約 6,200 人である。宿泊業・飲食サービス業の従業者数は 3 番目で、約 6,300 人の市民が従事しているが、全国の従業者割合で除した特化係数は、男性 2.25、女性 1.75 であり、産業別従業者割合が最も高い(平成 22 年国勢調査)。

(伝統的工芸品・別府竹細工の現状)

昭和 54 年、別府竹細工は、伝統的工芸品産業に関する法律第 2 条に基づき、大分県で唯一政府から「伝統的工芸品」として指定を受けている(平成 54 年 8 月 3 日第 1 2 次指定)。別府竹細工は、本市の地場産業として、温泉に次ぐ別府名物の一つである。大分県は真竹(まだけ)の生産量が日本一である。良質な真竹を主材料に花籠や盛り籠、ファッション性の高い小物類やインテリア雑貨まで伝統のものづくりが現在も受け継がれている(アゴラ 2016.11 月号(日本航空株式会社)74 頁)。

しかしながら、全国の伝統的工芸品産業の状況は、生産額において、昭和 59 年には 5,237 億円であったが、平成 19 年には 1,773 億円となり、約 3 分の 1 程度にまで減少している状況にある。

(竹産業のイノベーション)

本市は、平成 27 年 10 月 27 日に策定した別府市総合戦略「まちをまもり、まちをつくる。べっぴん未来共創戦略」において、「伝統工芸を基にしたイノベーション」を掲げ(16 頁)、大分県で唯一国の指定を受けた伝統的工芸品である竹細工・竹産業の強化を宣言し、「竹産業のイノベーション」に取り組み(16 頁)、竹産業の育成と裾野拡大による竹産業の振興を図ることとし

ている。さらに、竹産業の活性化による雇用増、竹産業を軸にしたインバウンド戦略の促進等を実現することも目指している。

本市には、プロの竹工芸作家の全国唯一の養成所である大分県立竹工芸訓練センター（訓練期間2年）がある。入校時、訓練生の約半数が本市内に移住・定住しているにもかかわらず、技術を習得した後は、本市に3分の1しか残っていないのが現状であり、別府竹製品協同組合の加入者数と竹細工従業者数が減少している要因ともなっている。流出の理由としては、修了生の多くが創作・製作と並行して、原材料の調達や作業場の確保、作品発表展示の機会や販路開拓などを製作者1人で行うことが困難と考え、少しでも創作・製作・事業活動に集中できる環境がある場所を求めて、市外に移動・移転を余儀なくされていることが主な要因と推察される。

したがって、竹産業の活性化に向けて、竹産業の人材育成のみならず、製作活動や作品発表の場の確保、事業化支援、販路開拓（受注機会とのマッチング）などの支援強化策に取り組みたい。

（ラグビーと竹細工というあり得ない組合せによる外貨獲得）

平成6年の設置以来、22年が経過した本市の「公の施設」である別府市竹細工伝統産業会館は、ラグビーワールドカップ2019公認チームキャンプ地誘致のため、天然芝グラウンド等を整備している実相寺中央公園多目的グラウンドから僅か160メートルの至近距離に位置している。ラグビーワールドカップの大分開催や公認キャンプ地誘致は、インバウンドも含めた観光・交流人口の呼び込みに大きく寄与することが期待できる。ラグビーワールドカップによってこの施設の周辺環境は大きく様変わりすることは確実であり、別府市竹細工伝統産業会館のイノベーションは必然である。本市は、ラグビーワールドカップ2019を見据えた上で、別府市竹細工伝統産業会館にべっふ竹の駅（Beppu Bamboo Base）を整備することによって、同会館を再生し、ワールドカップ効果とも連動した地域産業の振興を図る千載一遇の機会と捉えている。

（べっふ竹の駅（Beppu Bamboo Base）による地域産業振興拠点づくり）

国土交通省登録の「道の駅」には、登録要件（休憩機能・情報提供機能・地域連携機能）に加えて、最近では地域産業振興拠点としての意味を深めてきたことが指摘されている。地域産業の振興には、①外貨（所得）の獲得、②人々の雇用の場・仕事の場の創出、③人々の暮らしを支えるという三つの側面がある（関満博・酒本宏編『増補版 道の駅 地域産業振興と交流の拠点』（新評論・2016）264頁・270頁）。べっふ竹の駅（Beppu Bamboo Base）は、「道の駅」の地域産業振興拠点としての機能に着目して、本市の「ひと・もの・しごと」を架橋し、外貨の獲得としごとの創出によって暮らしを支える好循環を生み出すことを目的とするものである。

（楕円に託す）

別府市竹細工伝統産業会館の前方160メートル先には実相寺多目的グラウンドが広がっている。2019年9月、ラグビーワールドカップ開幕の日、べっふ竹の駅(Beppu Bamboo Base)から蹴り出された楕円の球は、160メートル(174ヤード)先の天然芝の上を舞っているはずである。本市は、地域のイノベーションを伝統工芸産業と楕円の球に託し、楕円球を前に向けてパスし、敢えて「オフサイド」することをめざしている。

【数値目標】

	事業 開始前 (現時点)	H28年度 (1年目)	H29年度 (2年目)	H30年度 (3年目)	H31年度 (4年目)	H32年度 (5年目)	KPIの 増加分 の累計
別府市竹細工 伝統産業会館 入館料収入 (単位：千円)	1,965 千円	983 千円	0 千円	741 千円	67 千円	67 千円	1,858 千円
竹細工製作者 市内在住者の 増加 (単位：人)	0人	7人	2人	0人	0人	2人	11人
新たな雇用創 出数 (単位：人)	0人	0人	5人	5人	5人	5人	20人

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

本事業は、平成6年に設置した本市の「公の施設」である別府市竹細工伝統産業会館に新たな機能を追加するとともに、既存の機能を強化することによって、竹産業を軸とした地域イノベーションと地域産業振興拠点として、べっふ竹の駅「Beppu Bamboo Base」を整備するものである。

この拠点整備は、本市の産業連携・協働プラットフォーム(B-biz LINK)と竹産業・ものづくりイノベーション協議会が協働し、伝統工芸技術を活用した新たな価値を創出しながら、同時に地域の魅力の増強と、ラグビーワールドカップ2019大分開催と公認キャンプ地誘致によるインバウンドをも含めた観光誘客を一体的なプロジェクトとして実施するものである。このような取組によって竹産業を梃子にした雇用の拡大、移住・定住の促進、さらには、交流人口の増加に伴う

消費拡大によって外貨（所得）の獲得、人々の雇用の場、仕事の場を創出することにより、市内経済循環の加速化を図るものである。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

別府市

② 事業の名称：伝統的工芸品とインバウンドの連結拠点としての「べっふ竹の駅(Beppu Bamboo Base)」整備プラン

③ 事業の内容

本市の「公の施設」である別府市竹細工伝統産業会館を竹産業活性化に関する支援機能（作業場提供・作品展示・受注マッチング等）を具備した施設へと強化整備するとともに、この施設の駐車場や空きスペースを活用した竹製品等の販売と飲食機能（「竹カフェ・Bamboo Café」）を整備し、地域産業の振興とラグビーワールドカップを見据えたインバウンドに訴求する拠点として、「べっふ竹の駅(Beppu Bamboo Base)」を整備する。

べっふ竹の駅(Beppu Bamboo Base)を整備することによって、別府市竹細工伝統産業会館を生まれ変わらせ、観光拠点としての機能強化を図り、観光による交流人口と竹工芸品への需要をマッチングし、竹産業の収入増加の起爆剤として新たな雇用にもつなげるものである。

加えて、再生された別府市竹細工伝統産業会館を活用することによって、竹産業の更なる人材育成（技術・経営スキル等）や商品開発等にも取り組むものである。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

本事業で行う竹製品の受注増加、別府市竹細工伝統産業会館の駐車場や空きスペースを活用した竹製品等の販売と飲食機能を整備することによって収入の確保を図る。

【官民協働】

竹細工製造業者、別府竹製品協同組合、竹細工材料製造事業者、金融機関、大学関係者、別府市産業連携・協働プラットフォーム(B-biz LINK)等から成る竹産業・ものづくりイノベーション協議会を設け、本施設を活用したソフト事業（人材育成・商品開発等）の検討及び推進を図る。

なお、別府市竹細工伝統産業会館は現在、本市の直営であるが、施設整備後は、別府竹製品協同組合等が運営（指定管理者又は運営委託）することも想定している。このことにより、専門性と機動性を兼ね備えた運営とソフト事業の実施についても期待できる。

【政策間連携】

竹産業の収入増加と雇用増加によって、竹工芸作家の後継者育成のための移住・定住政策の促進や、竹産業のブランド力向上に伴うインバウンドをはじめとする観光政策の強化につなげる。

別府市竹細工伝統産業会館に隣接している実相寺中央公園多目的グラウンドは、現在、ラグビーワールドカップ2019公認チームキャンプ地誘致のため、天然芝グラウンドや観客席を整備しており、ワールドカップ効果とも連動した地域振興を図ることができる。

【地域間連携】

別府市竹細工伝統産業会館には、全国各地から竹工芸関係者も訪れ、産地間の連携も行われている。今後は、この施設を全国の竹工芸の拠点として、別府以外の産地の作品展示等も含め、広域的な交流・連携拠点とする。

また、海外における見本市等にも戦略的に出展することも想定し、日本における竹工芸全般の連携拠点となることも期待できる。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

	事業 開始前 (現時点)	H28年度 (1年目)	H29年度 (2年目)	H30年度 (3年目)	H31年度 (4年目)	H32年度 (5年目)	KPIの 増加分 の累計
別府市竹細工 伝統産業会館 入館料収入 (単位：千円)	1,965 千円	983 千円	0 千円	741 千円	67 千円	67 千円	1,858 千円
竹細工製作者 市内在住者の 増加 (単位：人)	0人	7人	2人	0人	0人	2人	11人
新たな雇用創 出数 (単位：人)	0人	0人	5人	5人	5人	5人	20人

⑥ 評価の方法、時期及び体制

施設整備が完了し、1年経過後において効果の検証・計測が可能な関係機関（商工会議所・公共職業安定所・別府竹製品協同組合・別府市竹細工伝統産業会館等）を通じて費用対効果等の計測・把握を行う。

効果検証の体制としては、商工会議所・金融機関・大学関係者・労働組合・住民代表等（社会福祉法人・旅館ホテル代表者等）の14人で構成された別府市総合戦略推進委員会（年4回開催予定）や市議会決算特別委員会等によって、効果を審査・検証することとしている。

⑦ 交付対象事業に要する経費

① 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費：65,884千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日まで

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 竹細工伝統産業会館管理運営事業

事業概要：べっふ竹の駅(Beppu Bamboo Base)を含む竹細工伝統産業会館の運営のため、その管理費及びインバウンド向けマーケティング事業を行うもの。

実施主体：大分県別府市

事業期間：平成28年度から平成32年度まで

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

定量的な目標の達成状況を確認するために、毎年度各指標の集計を行い、商工会議所、金融機関、大学関係者、労働組合、住民代表等（社会福祉法人・旅館ホテル代表者等）の14人で構成された別府市総合戦略推進委員会（年4回開催予定）によって、効果の検証・評価を行う。

目標1

「べっふ竹の駅(Beppu Bamboo Base)」利用者数の増加は、施設利用者数を計測することで把握する。

目標2

竹細工製作者市内在住者の増加は、別府竹製品協同組合が年度末に把握する。

目標3

新たな雇用数は商工会議所、公共職業安定所等が年度末に把握する。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	事業 開始前 (現時点)	H28年度 (1年目)	H29年度 (2年目)	H30年度 (3年目)	H31年度 (4年目)	H32年度 (5年目)	KPIの 増加分 の累計
別府市竹細工 伝統産業会館 入館料収入 (単位：千円)	1,965 千円	983 千円	0 千円	741 千円	67 千円	67 千円	1,858 千円
竹細工製作者 市内在住者の 増加 (単位：人)	0人	7人	2人	0人	0人	2人	11人
新たな雇用創 出数 (単位：人)	0人	0人	5人	5人	5人	5人	20人

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

毎年度末の時点において、効果の検証・計測が可能な関係機関（商工会議所・公共職業安定所・別府竹製品協同組合・別府市竹細工伝統産業会館）を通じて把握する。

効果検証の体制としては、商工会議所・金融機関・大学関係者・労働組合・住民代表等（社会福祉法人・旅館ホテル代表者等）の14人で構成された別府市総合戦略推進委員会（年4回開催予定）や市議会決算特別委員会等で行われる審査において効果検証を行うこととし、検証後、別府市版総合戦略に改訂等を行う必要が生じた場合は、反映させることとする。

検証結果等は、本市公式ホームページ等で公表する。